

京都教区時報

<https://www.kyoto-catholic.net/>

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

「このとりのかご」に預けられた生い立ちを实名で公表した宮津航一さんの講演会（京都小さな生命を考える懇談会主催）が行われました。里親の姓「宮津」に、「航一」は当時の熊本市長が、洗礼名「マタイ」は小教区の神父様が命名くださったそうです。宮津家では、ご両親と五人のお兄さんの愛情に包まれて成長することができました。

熊本市の慈恵病院が、親が育てられない子どもを匿名でも預かる「このとりのかご」設置を発表すると「親が子を捨てることを助長するのではないか？」「父母がわからない子でよいのか？」等の危惧の声が挙がりました。しかし、命を守ることを最優先に開設が決まり、18年間で193人の幼い命がゆりかごに預け入れられたのです。

福岡で育児放棄により子どもが餓死する事件が起きました。心を痛めた宮津さんは、地域の繋がりを子どもの居場所作りのために、熊本市内のカトリック帯山教会内に「子ども食堂」を創設し、「お腹を満たし、心を満たす」活動に取り組んでいます。「他者の幸せのために生きるマリリスト生」を校訓とする熊本マリリスト学園高校の同窓生が、

第8回 小さな命を守るために



ボランティアで手伝っているそうです。「置かれた場所で咲きなさい」は、宮津さんが大切にしている言葉です。宮津さんは、「花に栄養を与える土のように、子どもたちに希望を与える土になりたい」と語ってくれました。

回勅『兄弟の皆さん』の「わたしたちは皆、傷を負った人の、追いはぎの、離れて通り過ぎる人の、そしてよいサマリア人の面影を帯びているのです。(69)」との前教皇フランシスコのご指摘が心に刺さります。

命の危機にさらされた母と胎児、そんな母子を置き去りにして姿の見えない父親、法整備に及び腰な行政、幼い命を守るために奔走する人、よいサマリア人のたとえ話が、今現実には日本社会に起きていることを感じます。

神の似姿として創造されたすべての命が大切にされる社会の実現を目指して、カトリック教会、病院、学校、支援者が、イエス・キリストとともに道なき道を切り開きながら歩み続けている姿に感動させられました。

河原町教会信徒 阿南孝也



宮津航一さん

10
2025

第18回 戦争と平和写真展

沖縄・フクシマ・戦争の爪痕

8月9日(土)―10日(日)

河原町教会 ヴィリオンホール

今年の正義と平和協議会の「戦争と平和写真展」は、「沖縄南西諸島の要塞化」の写真、「ガザ・パレスチナ歴史と現在」のパネル展、福島「異常多発が続く福島原発事故後の小児甲状腺がん」の統計による資料に加え、黒田雅夫さんによる絵本『今を生きる満州からの引き揚げの記録』の原画も展示された。期間中、120名を超える方々が来場、展示に熱心に見入る姿が見られた。

関連して、二日目の午後、黒田雅夫さんとご子息の毅さんを会場にお招きし、雅夫さんの引き揚げの体験を、毅さん作成のスライドとともに聞きする講演会も実施した。以下はその講演の記録である。

黒田さんは亀岡市在住の88歳。

1940年代、吉林市南部の廟嶺に家族で入植し、敗戦後、国民学校3年生の時に引き揚げた経験を、長年、語り部と



黒田雅夫さん

して伝え続けてこられた。炎暑の中、参加者およそ40名は、黒田さんの語られる引き揚げの記憶に耳を傾け、戦争がもたらす過酷な現実を心に刻み、改めて平和への祈りを共有するひとときを過ごした。

戦争は人を狂気に変える

「戦争というのはね、もう人を狂気に変えてしまいますよ。それから戦争は、日常は非日常になりますよ。人は、人に本当に大きな、大きなダメージを与えますよ」。

黒田さんは冒頭にこう語られた。その言葉は、敗戦、逃避行、収容所生活、家族の分断、そして路上生活へと続く黒田さんの体験そのものであった。

入植からつかの間の平和、そして敗戦

黒田さんの父親は、インパール作戦から帰還後、「開拓団員は召集されない」という説明を信じて「廟嶺京都開拓団」に加わった。入植当初は、中国人の子ど

もたちと遊び、互いの言葉を教え合う平和な日々があったという。

しかし敗戦直前の4月、父親にも召集令状が届き、出征。敗戦後、開拓団は現地で復讐の対象となり、住民からの襲撃を恐れて逃避行を余儀なくされる。黒田さんと祖父、母、弟の4人は、食べるものもなく、泥水をすすする飢えと乾きの中、約400kmの道のりを歩き、撫順の収容所にたどり着いた。

収容所での凄惨な日々、家族との別れ

「戦争が終わってから多くの人が亡くなられました」と黒田さんは語る。収容所では、まだ幼い黒田さんの目の前で、栄養失調や発疹チフスにより数百名が亡くなったが、その遺体は、厳寒で土地が凍っていたため埋葬もできず、敷地内に山積みになされていたという。

そして、その遺体の山の前は、黒田さんにとって、略奪の心配がない、収容所内で一番安全な場所となっていた。

「裸の死体がずっとあるところやったら、誰も近づいてこない。そこでご飯を炊いて食べていた」と語られる黒田さんの言葉は、収容所において、死という非日常が日常となる中で、遺体の横で食事をとることを安全だと感じてしまう狂気をまざまざと伝えていた。

路上生活と帰国、そして弟との再会

黒田さんの祖父と母は収容所で命を落とし、弟は中国人家庭に預けられた。一人になった黒田さんは収容所を抜け出し、路上生活を始めた。そこでは、入植当初に中国人の友達と過ごす中で覚えた中国語のおかげで、露天商に助けられることもあったという。やがて、メリノール会の中国人シスターに保護され、「バイドルウ（パウロ）」という洗礼名を授けられ受洗。その後間もなく、舞鶴への引き揚げ船に乗ることができた。

43年を経て1988年、残留孤児として来日した弟との再会を果たし、以来、ともに日本にお住まいであるものの、いまだに言葉の壁や心のわだかまりが残るという。「やっぱり、まだ、戦争終わってないな、っていうふうに思います」黒田さんの言葉が、深い無念とともに私の胸に刻まれた。

今を生きる私たちへの問いかけ

平和な日常を享受する私たちは、戦争の記憶を過去の出来事として遠ざけがちである。しかし、黒田さんの証言は、人の生活を根こそぎ破壊する戦争の爪痕が、今なお続く現実であることを突きつける。講演の最後に、黒田さんは「命を大切にしないかんっていうこと」と締めくくられた。

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5章9節)。

黒田さんの語りは、私たち一人一人もまた、平和を実現する者として具体的に行動するよう促しているように感じられた。黒田さんの率直かつ勇気ある証言に、心からの感謝を捧げつつ、この日の学びを平和を実現する行動へと変えていく力が与えられるよう祈りながら、私もまた歩みを進めていきたい。

正義と平和協議会 古林朋子

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

来場者の感想(今回初めて小学生からも感想をいただきました)

■「今を生きる」の展示で、満州で、とてもひどいことや辛いことがあったということをわからされました。この写真展を見て、戦争なんてダメだ、二度と起こってはいけなとおもいました。

■戦争は絶対あきません。人間はなぜ仲よくできないのでしょうか。夫の遺骨はまだ帰ってきていません。レйте島で眠っているのでしょうか。



■毎年見せてもらっています。

■「今を生きる」の展示、手描きの絵が素敵でした。

■黒田さんの絵画、実際の暮らしが想像できてよかった。

■戦争はまだ終わっていないという言葉、召集されないはずだったのに開拓団員が召集されたという理不尽さに、怒りが湧いてきます。

■黒田さんの実体験を聞かせていただき、当時の状況を詳しく学ぶことができました。戦争のもたらすひどさ、開拓の取り組みの矛盾など、もっと知らなくてはいけないことが多いと気づきました。

■戦争がどれだけ子どもや女性、一般人の犠牲を強いたかがよくわかりました。未来の世代が、同じ苦しみを引き込まれないよう学び、祈り、行動しなければならぬと痛感します。

■黒田さんのお話を多くの方に聞いてほしい。ご健康をお祈りします。



おわびと訂正

教区時報2025年9月号P2 P3「台湾と沖縄」の記事中の「西南諸島」は、「南西諸島」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

行事のひとコマ

**大阪高松教会管区司牧者研修会 6月9日～11日 サクラファミリア（大阪梅田）**

「希望をもってともに宣教の旅へ」のテーマのもと、大阪高松教会管区（名古屋、京都、大阪高松、広島）の司教・司祭・助祭・修道者・信徒約150名が一堂に集い、司牧者研修会が開催されました。この研修会は3年に一度行われるもので、司牧者たちがともに学び、「霊における会話」で分かち合いを行いました。

比叡山宗教サミット38周年「世界平和祈りの集い」 8月4日（比叡山延暦寺）

1986年、教皇ヨハネ・パウロⅡ世の呼びかけによって、聖フランシスコゆかりの地、イタリアのアッシジにおいて、「世界平和の祈りの集い」が開催されました。その精神を引き継ぎ開催された1987年の第1回の集い以来、毎年「平和の祈り」は続けられ、今年で38周年となりました。今回は、大塚喜直京都司教と共に、駐日教皇大使フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教も参加し、宗教の垣根を超え、心を合わせて世界平和のために祈りを捧げました。



写真提供 天台宗

唐崎祈りの家 黙想会

唐崎祈りの家では、年間を通じて黙想会の企画を行い、多くの方にお申し込みいただいています。日常からしばし離れ、琵琶湖を臨みながら静かに自分を見つめる時間は、かけがえのないひとときです。今年の黙想会の空きもまだ少しありますので、本部事務局までお尋ねください。

黙想会予定表→



シノドスの歩み 2028年「教会総会」に向けて

日本の教会のロードマップ（行程表）

世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会は、「ともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教」をテーマに、2021年から2024年にかけて、世界中で行われました。現在は、2024年開催の第2会期で採択された「最終文書」を基に実施する期間へと進んでいます。

- 2025年6月からの1年間……最終文書についての理解を深める期間
- 2026年6月からの1年間……各教区、各分野で具体的に取り組みをする期間
- 2027年6月からの1年間……各レベルでの評価を行う期間
- 2028年10月……バチカンでの「教会総会」開催



シノドス最終文書



シノドス実施ステージの旅程

カトリック中央協議会HPより抜粋
文責：京都司教区広報委員会

「シノドス」詳細は左記QRコードを読み取るとカトリック中央協議会HPより読むことができます。

Y E S 2025ご案内

Y E S とは… Y=Youth
E=Enjoy, Encounter, Exchange, Etc…
S=Space

の略で、京都教区の青年が「年に一度、気楽に集まろう！」ということで計画されたイベントです。

Y E S 2025は、司教様の講話や聖年に関する分かち合い、レクリエーションなど様々なプログラムを企画していますので、ぜひご参加ください！

詳細は、青年センターの公式LINEやInstagramにてお知らせいたしますので、ご確認ください！

テーマ：希望のロープ
日 程：2025年11月22日（土）～23日（日）
場 所：カトリック桃山教会
対 象：18歳～35歳（高校生不可）

唐崎教会 池田瑠智亜

つながりネットワーク 深めようコミュニケーション

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を超える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センター
公式 LINE

青年センターあんでな

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

教会学校研修会

日 時：11月1日㊥ 10:30～15:30

場 所：河原町カトリック会館大ホール

講 師：下永裕基氏（明治大学准教授・荻窪教会信徒・「こじか」「クイズでしたしむ聖書のことば」執筆者）

対 象：教会学校リーダー、および18歳以上で教会学校の活動に関心のある方

問合せ：信仰教育委員会

shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

Fax/075(366)6679

申 込：小教区でまとめて

現地学習会

「渡来人歴史館と大津教会を訪ねる」

日 時：11月8日㊥ 10～14時

集 合：J R大津駅北口改札出たところ9:45

行 程：渡来人歴史館～大津駅～膳所駅～大津教会（昼食・分かち合い）

持ち物：昼食・飲み物

参加費：無料

申込・問合せ：正義と平和協議会

075-223-3340

seiheikyo@kyoto.catholic.jp

広報委員会

教区時報12月号の原稿締切日は10月20日㊥です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp

小 教 区

アッパレシーダの聖母ミサ（ポルトガル語）

10月5日㊥ 16:00 四日市教会

10月12日㊥ 11:00 鈴鹿教会

10月19日㊥ 14:00 草津教会

セニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）ミサ（スペイン語）

10月25日㊥ 19:00 上野教会

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

日 時：10月12日㊥ 14:00 聖歌練習

10月25日㊥ 17:30 練習後集会祭儀奉仕

団員募集中

場 所：河原町教会聖堂

問合せ：則武 隆 075-951-4283

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練 習：10月9日㊥ 10:00 23日㊥ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

聴覚障がい者の会・京都グループ

教会訪問・手話ミサ

日 時：10月21日㊥ 10:30～

場 所：彦根教会

京都駅より新快速で50分

J R彦根駅から直線800m

10:30 受付 11:00 手話ミサ

12:00 昼食、交流会、教会見学

（各自弁当持参）

参加費：無料 どなたでも参加できます。

問合せ：鎌田修 kamadaosamu@gmail.com

090-1967-5636

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

10月の主テーマ「祈り合う」

K B S 京都 ㊥～㊤ 朝5:55

㊥ 朝5:15

ラジオ関西 ㊥～㊤ 朝5:35

㊥ 朝6:05

毎日放送 ㊥～㊤ 朝5:45

㊥ 朝4:55



カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：10月12日㊥ 九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

ラウダート・シ10周年記念シンポジウム

エコロジカルな霊性 —— 和解を生きる ——

日 時：10月4日㊥ 13:00～15:00

ライブ配信あり

主 催：日本カトリック司教協議会

ラウダート・シ部門



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271